

錦画百事新聞31号 官許



大夜斎
 身、大區十二小區
 全橋幸自佐藤吉兵衛の
 娘、子へ阿波屋中通百若山
 弥三郎と云ふ子才の者成りて
 名か此家を作りえ、ふゆつとを
 十月三日夜、屋漏北詰の
 失火、ちと下土吉、在雲の
 知言の方へ、馳せ行い
 以跡ハ女房公呈と云
 二人り、店番をして居た
 折柄、出及庖丁を振廻し
 入くる荒男、何や、公呈を切まかるを
 咄ハ味を、抱き出で、大音上げて、叫び、方に、隣家の
 若元康を大勢、取巻け、彼の男、り、や、腕、



事か、おかしと思ひ、持たし、出及庖丁を、殺と、こが
 暖へ、莫、こ、立、を、是、余、人、ゆ、ゆ、不、録、せ、
 養子、弥三郎、ある、は、こ、く、火、事、と、い、な、う、る、人
 走、出、は、い、の、ま、を、先、方、の、見、舞、も、早、く、往、て
 や、か、く、と、な、れ、と、出、な、お、我、の、家、の、用、心、を、見、て、火、の、め、と、お、御、思、く、
 燈、臺、基、閣、

心懸

錦画百事新聞31号
 印刷、前田屋

大夜斎
 身、大區十二小區

大夜斎
 身、大區十二小區

